

令和 7 年度

秋入試

茨城大学大学院人文社会科学研究科

入学試験問題

人文科学専攻

令和 7 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究科

秋入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 歴史・考古学 ）

専門領域 （ 日本考古学 ）

試験区分 （ 一般 ）

問題冊子ページ数 2 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 1 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究科

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 日本考古学 ）

1 次の遺跡のうち2つを選び、遺跡の概要を説明したうえで、考古学上重要視されている理由について述べなさい【各5行程度】※。

上境旭台貝塚 十王台遺跡 后塚古墳 浮島尾島貝塚 神野向遺跡

2 古墳とはなにか、その定義をめぐる論点をわかりやすく解説しなさい【12行程度】※。

3 次のページの資料①に示す二つの図の違いについて、あなたの見解を加えて解説しなさい。【10行程度】※

※解答の分量は目安を超えても良いが、解答用紙の枠内におさめること。

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究科

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 日本考古学 ）

資料①



図 A

出典：濱田耕作 1922 『通論
考古学』

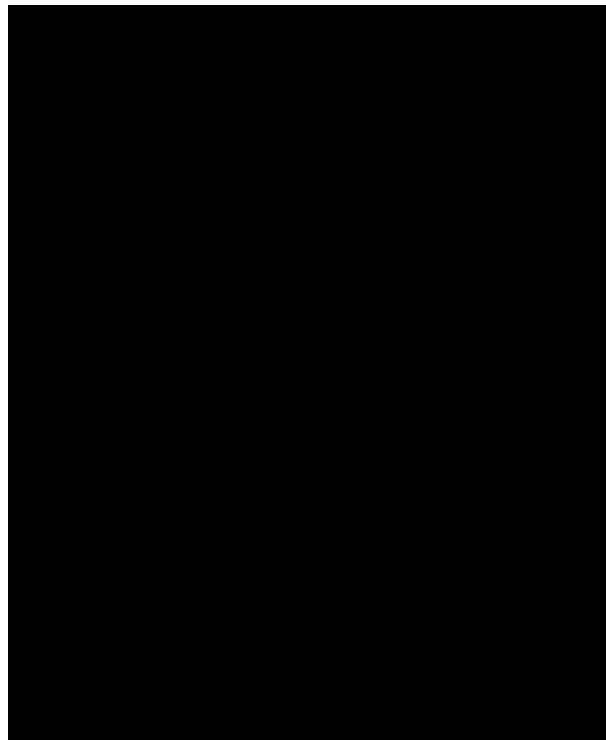


図 B

出典：Renfrew & Bahn 2016
“Archaeology”

令和 7 年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【秋入試】 （専門科目） 解答例

専 攻：（ 人文科学 ）

専門領域：（ 日本考古学 ）

試験区分：（一般）

- | | |
|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none">・選択の組み合わせと論述内容から、受験者の専門的な関心の広さと範囲、日頃からの専門的な情報収集の能力を問い、本専攻及び本領域への適合性を測る論述問題である。・明らかな誤認はないか。・目安に対して適切な分量があるか。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none">・専門領域における基礎知識と、学史の中で受験者が注目する観点を問うことにより、専門的な学修及び論述能力を測るための論述問題である。・出題意図に沿った解答がなされているか。・解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。・明らかな誤認はないか。・目安に対して適切な分量があるか。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none">・グローバルな方法論に関する基礎知識を問うとともに、受験者の思考力を測るための論述問題である。・出題意図に沿った解答がなされているか。・資料を読み取り、解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。・明らかな誤認はないか。・目安に対して適切な分量があるか。 |

令和七年度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

秋入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻（人文科学）

コース（歴史・考古学）

専門領域（日本古代中世史）

試験区分（リカレント）

問題冊子ページ数 一ページ（表紙を除く）

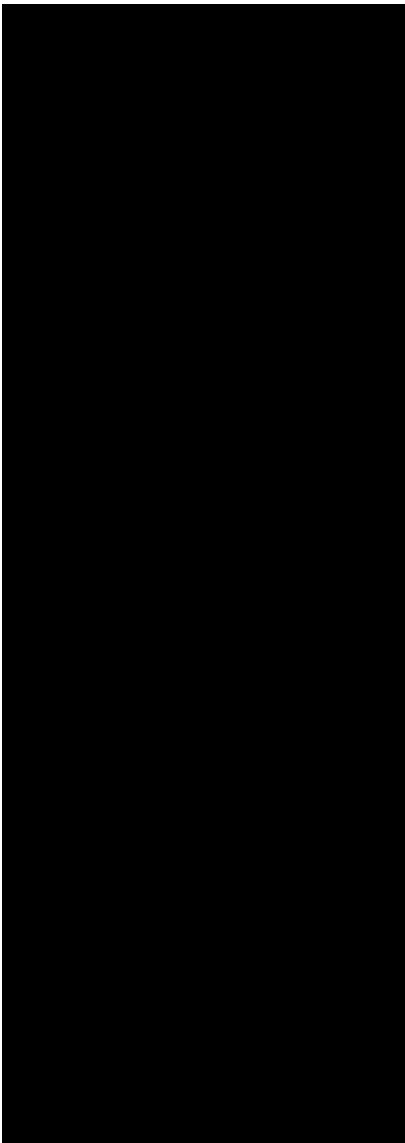
解答用紙枚数 二枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学部研究科

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（日本古代中世史）

一、次に引用する古文書（「正宗寺文書」の一通）について、後の設問に答えなさい。



- (1) 本文を読み下し文（書き下し文）に改めなさい。
- (2) この文書の差出者について説明しなさい。
- (3) この文書の文書名について、次のうちから正しいものを選びなさい。
 - ① 下文 ② 下知状 ③ 御教書 ④ 御判御教書
- (4) 本文中の「益戸常陸入道」「同常陸三郎」は下河辺氏だが、この一族について説明しなさい。

- (5) 本文中の次の用語について説明しなさい。

- ① 円覚寺 ② 雑掌 ③ 遵行 ④ 沙汰付 ⑤ 所務

二、中世常陸の武士団と在地寺社との関係について、次の用語をすべて用いて論じなさい。

（鎌倉幕府 惣領 領主支配 信仰 祭礼）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

【秋入試】（専門科目） 解答例

専攻（人文科学）

専門領域（日本古代中世史）

試験区分（リカレント）

問一

(1) 円覚寺雑掌申す、常陸国小川郷内益戸常陸入道跡の事、同じく常陸三郎度々の遵行に背き、押領に及ぶと云々、頗る重科を招くか、所詮寄進状の旨に任せて、下地を寺家に沙汰し付け、向後は所務を全うせしむべきの状、件の如し、

(2) 鎌倉公方、足利尊氏の孫、基氏の子、小山義政の乱、小田孝朝の乱などについて説明

(3) ④

(4) 摂津源氏に仕えた下河辺一族、頼朝に従い常陸南郡に所領、南朝に味方し勢力を失う、などの説明

(5) ① 臨濟禪、北条氏との関係、鎌倉五山、舍利殿、など説明

② 所務雑掌と沙汰雑掌、荘郷支配の実務、など説明

③ 上級者の命に従い、現地でその主旨を執行すること

④ 領有権利者とその土地の領有を実現できるようにすること

⑤ 荘園の現地支配の実務のこと

問二

・ 出題意図に沿った解答がなされているか。

・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。

・ 用語がすべて適切に使用されているか。

・ 常陸の寺社や武士団の事例が適切に用いられているか。

令和 7 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究科

秋入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 心理・人間科学 ）

専門領域（ 認知行動論 ）

試験区分 （一般）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 4 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究科

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 認知行動論 ）

問題 1 と問題 2 について、それぞれ所定の欄に解答しなさい。

問題 1 以下に挙げる用語の意味を説明しなさい。4 問すべてに解答すること。

- 1) 心的回転実験 (mental rotation experiment)
- 2) ソーシャル・スキル (social skills)
- 3) 系統発生・個体発生・微視発生 (phylogenesis・ontogenesis・microgenesis)
- 4) 責任の拡散 (diffusion of responsibility)

問題 2 以下の問題に解答しなさい。2 問両方に解答すること。

- 1) 心的イメージ能力を測定する方法について、知っていることを自由に論じなさい。
- 2) トマセロが提示した「2重継承理論」を解説したうえで、この理論によって何が説明できるのかを述べなさい。

令和 7 年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【秋入試】 （専門科目） 解答例

専 攻：（人文科学）

専門領域：（認知行動論）

試験区分：（一般）

問 1

1) 心的回転実験（mental rotation experiment）

Shepard & Metzler (1971)は、われわれが心内で物体を回転させるとき、回転する角度の増減に伴い回転に要する時間が正比例的に増減することを示した。これは、心内で物体を回転する速度等を測定できることを意味する。すなわち、従来イメージという主観的な体験は他者から観察不可能なものと考えられてきたが、この実験により客観的な行動指標で測定できる観察可能なものであることが示され、その後の心的イメージ研究に大きな影響を与えた。

現在、個々人の心的イメージ回転能力を測定する質問紙等も作成され（e.g., Vandenberg & Kuse, 1978）、心的回転能力とその他の認知活動との関係についてなど、多くの研究が行われている。

2) ソーシャル・スキル（social skills）

対人場面において相手に適切かつ効果的に反応するために用いられる言語的、非言語的な対人行動。通常、複数の言語的、非言語的なスキルが同時に使用される。これらのスキルは対人行動に対する他者が与える強化により、または他者の対人行動のモデリングによって学習される。特定の社会的スキルが学習されていないと、または不適切に学習されていると、引っ込み思案、攻撃性をはじめとする対人的問題や適応上の問題を引き起こす可能性が増す。

3) 系統発生・個体発生・微視発生（phylogenesis・ontogenesis・microgenesis）

個体発生は人間を含めた生物における受精後の生涯にわたる発達過程を表す。個体発生が始まる前には系統発生として長い進化の時間があり、生物にはその痕跡が残されている。そして、微視発生は周囲の環境の中で生じる短い時間単位の変化である。微視発生は個体発

生に影響を与える

4) 責任の拡散 (diffusion of responsibility)

ある出来事に対する責任が複数の人によって共有される状況にあるとき、その責任の重さが個々人に分散されることによって、それぞれが感じる責任は、単独で責任を負う状況よりも軽くなること。援助行動が求められる場面において生じる傍観者効果や、集団討議後の意志決定にみられるリスク・テイキング行動などを説明する概念として用いられる。

問2

- ・当該問題で示されている心理現象が適切に説明されているか。
- ・当該問題に関連する先行研究が適切に引用されているか。
- ・出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。

令和 7 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究科

秋入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 公認心理師 ）

専門領域 （ 心理実践学 ）

試験区分 （一般・リカレント）

問題冊子ページ数 5 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 4 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 心理実践学 ）

【問1】

次の(1)～(5)の問題に対応した選択肢を選びなさい。

(1) 次の文の空欄 1、2、3 に入れるのに、最も適した語の組み合わせを1つ選びなさい。

統計的検定は、ある（ 1 ）の性質について知るために、その（ 1 ）からランダムに選んだ（ 2 ）についてデータを求め検定を行うことが一般的である。そのために、まず（ 1 ）の性質に 関して（ 3 ）を立て、それを検定により否定することによって、ある主張をする。（ 3 ）が正しいのに間違っていると結論づける危険率が、ある水準（例えば 0.05）以下であるときに、その検定結果が有意であるという。

- | | 1 | 2 | 3 |
|----|------|-----|-------|
| a. | 検査対象 | 実験群 | 理論モデル |
| b. | 検査対象 | 実験群 | 帰無仮説 |
| c. | 母集団 | 標本 | 帰無仮説 |
| d. | 母集団 | 被験者 | 理論モデル |
| e. | 研究対象 | 標本 | 作業仮説 |

(2) 次の心理検査の信頼性に関する記述のうち、適切なものに○、不適切なものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを1つ選びなさい。

- 1 信頼性を推定する場合、Kuder-Richardson の方法や α 係数を用いることがある。
- 2 信頼性とは、その検査が測ろうとしているものをどの程度測定しているかを表す測度である。
- 3 平行検査法を用いて求めた信頼性係数は、尺度の等価性を表している。
- 4 折半法を用いて求めた信頼性係数は、検査で得られる結果の安定性を表している。

- | | 1 | 2 | 3 | 4 |
|----|---|---|---|---|
| a. | ○ | × | ○ | × |
| b. | × | ○ | × | ○ |
| c. | ○ | × | ○ | ○ |
| d. | ○ | ○ | × | × |
| e. | × | × | ○ | ○ |

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 心理実践学 ）

(3) 仮現運動の説明として誤っているものを1つ選びなさい。

- a. 適当な距離と時間間隔で電球を点灯したり消したりすると、なめらかな動きが感じられる。
- b. 対象 A と対象 B を少し距離を置いて交互に呈示すると、その時間間隔が極端に短ければ両者は同時に見え、長ければ経時的に現れる。
- c. 対象間にゆっくりとした速さで相対的運動が生じていると空間的枠組みとして働いているものが静止し、その内部に位置づけられているものが動いて感じられる。
- d. 第一刺激よりも後に呈示される第二刺激の方が刺激強度が大きいと、第一刺激への逆向きの運動が感じられる。

(4) 自分が本当はAさんのことが嫌いなのに、Aさんが自分を嫌っていると責任転嫁する防衛機制として正しいものを、1つ選びなさい。

- a. 抑圧
- b. 合理化
- c. 反動形成
- d. 投射
- e. 置き換え

(5) 負の強化の説明として正しいものを、1つ選びなさい。

- a. 行動の後にある刺激が出現することにより、行動がより頻繁に行われるようになる。
- b. 行動の後にある刺激が出現することが、その刺激を排除するような行動を増加させる。
- c. 行動の後にある刺激が与えられると、その行動は次第に生じなくなる。
- d. 行動の後にある刺激が取り去られると、その行動は次第に生じなくなる。

【問2】

以下の語句を説明しなさい。

- ① 具体的操作期
- ② 認知的不協和理論
- ③ ウェルニッケ（Wernicke）失語

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 心理実践学 ）

【問3】

以下の(1)～(5)の文章の内容が正しければ○、誤っていれば×を回答せよ。

- (1)公認心理師法第43条に、資質向上の責務が定められている。
- (2)アドバンス・ケア・プランニングとは、人生の最終段階で受ける医療やケアについて話し合い、意思決定を支援するプロセスであり、人生会議とも言う。
- (3)遺伝カウンセリングにおいて、理論的再発率に関連するものとして Z 連鎖劣性遺伝がある。
- (4)薬物動態学的特性とは、薬物が身体に及ぼす影響のことである。
- (5)ナラティブ・アプローチは社会構成主義に基づいており、要支援者がこれまでの人生で社会との関わりにおいて、自分のコミュニティをどう意味づけてきたかを重視する。

【問4】

以下の文章の（ 1 ）～（ 5 ）に当てはまる語句を、語群ア～トから選べ。

- ・ 要支援者が17歳の時、ウェクスラー式の知能検査として（ 1 ）を用いる。
- ・ （ 2 ）は自身の経験から、人間が持つ意味への意志を重視し、ロゴセラピーを開発した。
- ・ （ 3 ）はジークムント・フロイトから精神分析学を学んだが、エディプスコンプレックス理論に疑問を持ち、フロイトと決別した。心的外傷に関する理論などの研究を深め、「臨床日記」などを刊行した。
- ・ 有名人の自殺などをメディアが報道することで、関連する自殺が増えてしまうことを（ 4 ）効果という。
- ・ （ 5 ）条約に関連して、子の引渡しの強制執行において、公認心理師が執行補助者となることがある。

語群

- | | | | |
|------------------|------------------|-----------|-------------|
| a. ハーグ | b. ウィーン | c. ニース | d. 中露善隣友好協力 |
| e. メラニー・クライン | f. ドナルド・ウィニコット | | |
| g. ルードヴィヒ・ビンズワング | h. ヴィクトール・フランクル | | |
| i. エリック・バーン | j. シャーンドル・フェレンツィ | | |
| k. アーロン・ベック | l. WISK | m. WISC | n. WEIS |
| o. WAIS | p. バンドワゴン | q. ピグマリオン | r. ウェルテル |
| s. パパゲーノ | t. モーツアルト | | |

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 心理実践学 ）

【問5】

以下の事例を読み、設問に答えなさい。

72歳の男性 A。約1年前頃から財布の金額が合わないと同居している息子に訴えることがあった。さらに、動きがぎこちなくなり、足がもつれ転びやすくなったこともあり、精神科クリニックを受診した。Aは、夕方になると自宅に子どもが遊びに来て騒ぐので注意をしても、子どもは返事をしないのだと話した。息子によれば、自宅に遊びに来るような子どもはいない。また、Aは、穏やかに過ごす日もあるが、気力もなくなり、ぼうっとしているような日もあるという。

問：Aの状態ともっとも関連の深いと思われる疾患名を以下の4つから一つ選び、そのように考えた理由を簡潔に述べなさい。

- ①アルツハイマー型認知症
- ②レビー小体型認知症
- ③血管性認知症
- ④前頭側頭型認知症

【問6】

次の5つの中から、3つを選び、説明しなさい。

- ①医療観察法
- ②EMDR（Eye Movement Desensitization and Reprocessing）
- ③社会的養護
- ④ACE（Adverse Childhood Experience）
- ⑤複雑性PTSD（Complex Post-Traumatic Stress Disorder：CPTSD）

【問7】

嗜癖行動（あるいは行動嗜癖）について、その概念を示しつつ、具体的に説明しなさい。

（以下空白）

5/5

令和7年度人文社会科学研究科

(人文科学 専攻)

秋入試 問題・解答用紙等訂正用紙

試験科目名：心理実践学

問題・解答用紙等の訂正

[問4]

誤：以下の文章の(1)～(5)
に当てはまる語句を、語群
A～Eから選べ。

正：以下の文章の(1)～(5)
に当てはまる語句を、語群
A～Eから選べ。

令和 7 年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【秋入試】（ 専門科目 ） 解答例

専 攻：（ 人文科学 ）

専門領域：（ 心理実践学 ）

試験区分：（一般・リカレント）

- 問1
- （1） c
 - （2） a
 - （3） c
 - （4） d
 - （5） b

問2

- ① ボウルビィのアタッチメント理論に基づき、エインズワースが、乳児期の母子間の情愛的結びつきの質を観察し、測定するために開発した実験法である。実験の手続きは、人見知りの激しい満1歳児の乳児が母親と実験室に入室し、見知らぬ人物（実験者）に会い、母親はこの人物に乳児を託して退室し、しばらくしてまた戻ってくるというもので、全体で8つのエピソードからなる。このうち分離と再会の場面における乳児の反応に基づき3群に分類され、A群、B群、C群とよばれた。B群は分離で泣き、再会で母に身体的接触を強く求め、その結びつきの強さを示すと同時に、安心すると活動を再開するといった母親への信頼感がある安定群であるが、A群は分離で泣かず、再会でも母を避けるなど母親との結びつきの薄い行動を示す。C群は分離で激しく泣き、再会場面では身体接触と求めるが、同時に叩くなど怒りの感情も示す。A群とC群をあわせて不安定群ともよぶ。
- ② フェスティンガーの提唱した認知的動機付けに関する理論。バランス理論に似ているが、より包括的である。この理論によれば、自己と周囲の環境についてのあらゆる知識は認知要素とよばれ、任意の二つの認知要素 x と y だけを考えて、 $\text{not-}x$ が y から帰結される場合、

その x と y から不協和が発生する。不協和は心理的に不快であるので、人はそれを低減したり回避しようと試みる。フェスティンガーは不協和が生じやすい状況として、①決定後、②強制的承諾、③情報への偶発的・無意図的接触、④社会的不一致、⑤現実と信念・感情との食い違い、を例示した。不協和の低減法には、理論的にいえば①不協和な関係にある認知要素の一方を変化し相互に協和的關係にすること、②不協和な認知要素の過少評価と協和的な認知要素の過大評価、③新しい協和的認知要素の追加、の3通りの仕方がある。さらにこの理論では、④人々は新たな不協和の発生や既存の不協和の増加をもたらす状況や情報を、積極的に回避すると仮定。

③失語症の代表的な類型の一つで、感覚性失語とも言う。大脳の中央溝の後方に位置する第一側頭回後部をウェルニッケ領域といい、この部分および周辺部が損傷を受けることにより生じる。この失語の特徴は、言語の理解が障害を受けることであり、特に話し言葉を聴覚的に理解することが困難となる。発話は一般に流暢で異常はみられないが、語が入れ替わる錯誤や意味不明な発話であるジャーゴンも見られ、書字や読みの障害を伴うことも多い。

問3

- (1) ○
- (2) ○
- (3) ×
- (4) ×
- (5) ○

問4

- (1) o
- (2) h
- (3) j
- (4) r
- (5) a

問 5

②レビー小体型認知症。

パーキンソン症状と幻視について、説明がなされているか。

問 6

①心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法）は、心神喪失又は心神耗弱の状態（精神障害のために善悪の区別がつかないなど、刑事責任を問えない状態）で、重大な他害行為（殺人、放火、強盗、不同意性交等、不同意わいせつ、傷害）を行った人に対して、適切な医療を提供し、社会復帰を促進することを目的とした制度である。2003 年に公布され、2005 年に施行された。

②眼球運動による脱感作と再処理法。Shapiro,F.によって考案され、1989 年に発表がされた。トラウマの原因となった場面を思い出しながら、左右にリズムカルな眼球運動を行うことで記憶の情報処理を促進し、フラッシュバックなどの症状を減らしていく心理治療である。

③社会的養護とは、保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。具体的な施策としては、里親や児童養護施設などがあげられる。

④逆境的小児期体験（Adverse Childhood Experience : ACE）とは、小児期における虐待や機能不全家族との生活による困難な体験のことである。アメリカの疾病予防管理センター（Centers for Disease Control : CDC）との共同研究者となった Felitti ,V.J.らは、逆境的小児期体験（Adverse Childhood Experience : ACE）が成人期以降の心身の健康にどのような影響をもたらすかという疫学研究の結果を 1998 年に報告した。その後、現在では ACE 研究として広く知られている。

⑤国際疾病分類第 11 回改訂版（ICD-11）にて、新たに採用された診断項目である。PTSD は①再体験症状、②回避症状、③脅威の感覚の高まりという中核的な 3 症状カテゴリーの症状をそれぞれ有し、それが機能障害を伴って続く場合に診断される。一方で、CPTSD は PTSD の 3 症状カテゴリーに加えて、自己組織化の障害とよばれる 3 症状カテゴリーの症状、すなわち①感情調整の困難、②否定的な自己概念、対人関係の困難を全て有し、それらが機能障害を伴って続く場合に診断される。

問 7

・「心理学的、行動科学的な視点から定義される用語で、嗜癖対象への渴望、強迫的な嗜癖対象への接近、離脱後再使用する傾向を含む」といった嗜癖行動の概念が示されている。

・ICD－11：物質使用症又は嗜癖行動症群、DSM－5：物質関連障害および嗜癖性障害群の分類である。

・物質嗜癖：アルコール、薬物（医師の処方薬なども含む）、たばこ等の物質に対する嗜癖、プロセス（行為）嗜癖：ギャンブル、ショッピング、盗癖、ゲーム、借金癖、摂食障害、等の行為に対する嗜癖、関係嗜癖：人との関係への嗜癖。具体例が示されていればなお可とする。

問 8

（1）

- ・文意が正確に読み取れているか。
- ・適切な日本語文に訳されているか。
- ・使用されている語句が過不足なく和訳されているか。

（2） c

（3） d